

中濃圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
6	変更	中部脳リハビリテーション病院	美濃加茂市	【現状、特徴】 令和4年6月にコロナ臨時医療施設として賃貸していた病棟の返還により令和4年8月より休床中であった42床(回復期病棟)を稼働。令和5年3月に宿泊療養施設として賃貸していた病棟も返還された。今後は残り58床を稼働し脳血管疾患等の回復期医療に注力していく。 【課題】 医師、看護師、医療スタッフの確保	急性期を経過した脳血管疾患、整形外科疾患の患者の在宅復帰を目的とした回復期リハビリテーションの提供						○	地域に不足している病床機能である回復期の分野を担う。	
7	新規	医療法人社団耀和会 濃成病院	可児市	【現状、特徴】 ・入院病棟60床は、療養病棟に特化。 ・外来は内科、外科、整形外科等対応。 【課題】 ・地域内において療養特化していることは周知されているが、新型コロナウイルス感染症の発症以来、従来通りの患者移動に多少の困難を来している。	・現在の療養型病院として機能していく所存であります				○		○	④複数医療機関による連携について深化させていきたい ⑥現状維持という部分は、地域内に療養型病院が必要不可欠と考え、近隣病院の要望にも応え運営していきたい又、病院規模(人員)からも当面、現状維持方針で継続運営していく考えである	
13	変更	社会医療法人 白鳳会 鷺見病院	郡上市	【現状、特徴】 郡上市人口3万9千人、65歳以上が40%と高齢化比率の高い地域である。南北に面積が広く南部は郡上市民病院・八幡病院、北部は鷺見病院・白鳥病院が一次・二次救急を担っており、当院は地域医療に求められている回復期(包括病床)慢性期病床も運用している。 【課題】 医師、看護師の高齢化 医療スタッフの確保	郡上市においては2020年より高齢化地域となっており、2025年以降現状から大きく65歳以上の高齢者が増えることはなく、現状の疾患、患者数と予測している。地域に見合った急性期、回復期、慢性期、僻地医療を提供できるよう、病診、病病連携の強化を図る。	○	○		○			① 近隣病院との調整が必要 ② 急性期病床数の見直し(現在は4階病棟をコロナ病床として使用) ④ 近隣病院との連携、役割分担が必要	
14	変更	医療法人 新生会 八幡病院	郡上市	【現状、特徴】 人口減少、医療ニーズの変化などにより患者数が減少しており、厳しい経営環境である。消化器内科が強みであり、郡上市全域から集患しており、リハビリニーズには積極的に応じていきたい。 【課題】 病床稼働率の低下、職員の高齢化(人材育成)、設備の老朽化、経営基盤の強化など	病床機能再編、地域医療機関との機能分担・連携などにより、地域の医療ニーズに合わせた医療提供を目指す。ニーズの低い部門を縮小し、運営の効率化を図る。	実施済み	実施済み					2022年に療養病床7床と一般病床4床を削減 2023年5月に療養病床20床と一般病床2床を削減	
21	未回答	岩永耳鼻咽喉科	美濃加茂市		未回答								
25	未回答	にしむら眼科	可児市		未回答								
27	新規	大和医院	郡上市	【現状、特徴】 現在休床中。 【課題】 豪雪地帯山間部にあり、人口減少地域のため。	検討中						○	地域的住民には病床回復を望む声もあるが、歴史的、人的・物理的・経済的・環境的難題があり、解決に至っていない。	
29	未回答	かわべ眼科	川辺町		未回答								
31	未回答	粕谷医院	八百津町		未回答								